



大阪府貝塚市には市内を南北に走る水間鉄道がある。南海電鉄貝塚駅で乗りかえると、約15分で終点の水間観音駅に到着する。奈良時代に聖武天皇の勅命を受けた行基が創建した「水間寺」の最寄り駅。山あいののどかな町だが、今、少しずつ装いを変えている。

水間鉄道水間線 水間観音駅 (貝塚市)



電車を降りると、まず目を引くのが駅舎だ。多宝塔のような造りはまるでお寺。その独特の外観に驚かされる。「水間鉄道は、水間寺に参拝する人のためにつくられたんですよ。駅はその玄関口ですから」。同社の谷本憲隆鉄道部長(60)＝写真＝が、そう教えてくれた。1926年(大正15年)に建設され、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造り。その姿はほとんど変わらず、99年には国の登録有形文化財にもなった。



谷本 憲隆 鉄道部長(60)＝写真＝

そばに三重塔が立ち、重厚な雰囲気漂わせる。天台宗の寺院で厄よけで知られ、年配の参拝客が多いが、「最近では若い人も増えています」と藤枝瑞樹副任職(40)＝写真＝。お目当ては、敷地内にある恋愛スポットだ。本堂から少し離れたところに縁結びの仏様、愛染明王をまつている「愛染堂」がある。約700年前、豪農の娘が毎晩、祈願し続け、身分の高い天皇の勅使との恋を成就させたという伝説がある。インターネットの普及で情報が広がったのか、若者らが絵馬に結婚など恋愛成就の願いを記してつるしていく。今年1月にはNPO法人「地域



藤枝 瑞樹 副任職(40)＝写真＝

「この恋届け」若者続々



水間鉄道
オリジナルデザインのヘッドマークをつけて運行されている



パサト
店名は「船を意味する言葉。初代オーナーだった大貴さんの「ヨット好き」で名付けた



水間観音駅
26年に水間寺の玄関としてつくられた。登録有形文化財

水間寺 愛染堂
愛染堂のそばには、恋を成就させ伝説になった男女の臺が建てられている



いずみの剣

あっさり太刀魚の「たっちょ重」



駅から西に約1*の「いずみの剣(つるぎ)」では、太刀魚料理が食べられる。太刀魚で有名な和歌山県有田市の旅館で料理長を務めていた若田博文さん(55)が2014年9月にオープンした。おすすめは「たっちょ重」。たっちょとは和歌山県の方言で太刀魚のこと。食感や見た目はウナギに似ているが、白身魚なのであっさりしていて食べやすい。値段は並が1300円、特上で2000円(いずれも税込み)。和歌山県や、貝塚市に隣接する泉佐野市の漁港でとれた新鮮で大きな太刀魚を使っており、「地域の新しい名物にしたい」と若田さんは話す。問い合わせは同店(072・446・1511)。



水間公園
春には360本のソメイヨシノが咲き誇る。愛染橋を渡りに来る人も多い



200m